

# まとめと今後の展望

## 最終章

2015年度の地域支援プロジェクトの報告書をお届けいたします。本年度もプロジェクトとして実践活動を継続できましたことも、大学内外の多くの方々からのご支援があつてのことです。活動の開催にご協力頂きました、伊佐市・霧島市・中種子町・屋久島町など様々な地域の方々や、研修会にご参加頂きました多くの方々に、心から感謝いたします。

この地域支援プロジェクトが開始して、本年度で6年目を迎えましたが、本研究科では今年3名の専任教員の交代があり、地域支援プロジェクトのスタッフも大きな入れ替わりの時期となりました。昨年度の報告書では、地域支援プロジェクトのコンセプトの一つとして、大学側は臨床心理学実践に関するミニマムな専門性を提供する役割を担うことの重要性について述べました。これまでに培った繋がりをもとに、あくまで地域の方々を主役とした活動という視点を重視することによって、スタッフの交代をスムーズに乗り切り、支援活動の継続へと繋がってきたものと考えられます。

本年度の新たな取り組みとしては、高齢者領域への支援活動の展開があります。今後我が国の高齢化率が急速に進行してゆくことはかねてより指摘されてきましたが、認知症をはじめとした高齢者への具体的な対応策について、地域の中で十分な知識と経験が根付いているとは言えない状況でもあります。これまでニーズが大きかった発達障害領域への支援に加え、高齢者領域への支援活動も、今後の本プロジェクトの大きな柱の一つとなってゆくことが期待されます。

また国際交流として、スウェーデンより河中先生、オランダより Vicki 先生など、本学に国際的な研究者・実践者をお招きする機会に恵まれました。本年度も含め、本研究科教員がスウェーデンをはじめとした海外に出向き、先端的な地域支援に関する情報収集を行ってきましたが、海外からこの鹿児島へ先生方を招聘するという新たな交流へと展開させることができました。研修会への参加者からの満足度も高く、今後の地域支援活動の充実として、海外講師招聘の努力を重ねてゆきたいと考えております。

臨床心理士を目指す大学院生への教育活動としての側面も、継続して重視しています。心理検査をはじめとした教育コンテンツは、大学院生の基礎的な学習内容として、正規の授業内容と連携した活用が始まっています。また、大学院生を実際に地域に派遣し、対象者と接する機会も増えてきました。これまでは、探索的な教育研究事業として、そのあり方を探求してきた本プロジェクトでしたが、今後は専門職大学院としての正規のカリキュラムへの統合への道筋が見える段階に入ってきました。臨床心理士の基本業務の一つである「臨床心理学的地域支援」に対する、実践的な教育カリキュラムが提示できるよう、今後も活動を続けてゆきたいと考えています。

今後も、地域と大学とが相互に学び合い、より創造的な活動へと展開してゆけますよう、引き続きのご支援とご指導の程どうぞよろしくお願いいたします。